

「札幌市障害福祉施策に関するアンケート調査 回答用紙」

お名前 池田 ゆみ

記入日 3月16日

所属政党 日本共産党

選挙区 豊平区

<アンケート回答記入欄>

(Q1～Q9は対応する設問の選択肢番号(例:①)を中欄に、その回答理由または、「その他」の回答内容は、右欄にご記入ください。)

Q1.	②	地域生活の実現は、施策としては基本的に強化を迫るべき重要な方向。歴史的経過もあり、現実も引き上げなければならないのでは。
Q2.	①	障害程度区分による施策は最低必要と見られるサービスも、現実に不足しており、生活ニーズから見れば、もっとサービスが不足するから。
Q3.	①	障害者の所得の現実を見ない「施設」は過大な負担を強いることになるのが実際だ。負担をもっと緩和しなければならない。
Q4.	①	ハンディをもっている人が、人間として生きていく上で、あらゆる分野について生活を補完するサービスの実現につとめるべき。
Q5.	①	現行規準でも、それが守られているかどうかの検証が必要だが、それ以上に行政が支えなければならないものがあるから。
Q6.	①	通常学級への在籍は「権利」として「義務」として実現されるべきです。しかし、現実には多くの課題が生じているだけに、公的に必要あり。
Q7.	①	札幌市役所が率先すべき。 当然のことです。
Q8.	①	国の基準では、排除がおこなわれているのが実態。 札幌市としての独自のとりくみが必要。
Q9.	①	「制定」だけでは必要な施策が進む保障とはならないから必要。 条例が力を発揮できるように広範囲な市民協議の中で「制定」に向かえばいい。

Q10.

憲法がいかされ、一人一人が人間らしく生きていくことが保障される障害福祉施策が必要だ。

一人一人の実態に合った支援が必要です。障がいのある方の目線から考えていくことが大切だと思っています。